



## ＊第38回＊ 湯面由香里

テレビ東京

### 発信する力

#### まえがき

私が学生の頃、「理系女子」、「リケジョ」という言葉が知れ渡りはじめ、その「リケジョ」として私は学生生活を送りました。これまでの理系女子の先輩方よりもこの立ち位置にメリットを感じながら過ごせたことから、リケジョという言葉に背中を押された一人ではないかと思います。

#### リケジョになったきっかけ

私が理系にすすんだきっかけは理系だった父親の影響もあったと思いますが、数学と理科が好きだったため、とても自然な流れでした。暗記科目が大の苦手だったのも理由の一つでもあります…。

高校進学時に理系コースを選択し、そこで出会った物理と化学に興味をもちました。

大学進学を考える中で、大学では環境にやさしいエネルギーについて勉強したいと思うようになり、本格的に理系の道をすすむことになりました。

#### 学生生活

理系クラスの女性は、高校でも大学でも少数です。高校には薬学部や栄養学部、建築学部志望の女性もいたため、40人程のクラスに10人は女性がいました。しかし大学に進学すると状況は

大きく変わります。電気電子工学科に進学したところ、400人近く学生がいるにも関わらず、女性は10人程度。しかもその半分はマレーシアからの留学生でした。入学式のときからとにかく目立つ。よくも悪くも目立つのです。私は弟がいるから昔から異性の友達が多く、比較的すぐになじむことができたため、自分が男か女かはあまり問題ではありませんでした。大学時代は原子力エネルギーなどのエネルギーや環境に関する勉強を中心に、プログラミングや通信に関する部分まで幅広く学ぶことができました。

そして当時女子大生の中でとっても流行っていたブログを書いたり、塾講師のアルバイトをする中で、発信することのおもしろさを知りました。iPhoneが日本で発売され、スマートフォンを持ち始めた頃だったこともあり、情報の入手もより身近になりました。発信するばかりでなく、発信されたさまざまな情報から流行を追うことにも夢中になりました。

その後、大学院進学を選ばず、大学卒業のタイミングで就職しました。その理由は勉強していたエネルギー業界ではなくテレビ業界にすすみたい、と考えたからです。我が家は比較的テレビが好きで、幼い頃からテレビが身近にあり憧れの世界でした。将来を考えるときに、好きなことを仕事にしたい、という想いがどんどん大きくなっていき、テレビ業界への就職に挑戦することを決めました。大学院でさらに2年間エネルギーに関することを勉

強するより、テレビ業界で実務経験を積んだほうが自分にとっては有意義なのではと考え、学部卒での就職を選びました。女性にとってこの時期の2年間は大きいと思ったので、この選択は真剣に考えてのことでした。もしテレビ局への就職が決まらなかったら、大学院進学を選んでいたらかもしれません。

さらに私は大阪出身なので、東京で就職するということは少し勇気が必要なことでした。これから自分は大阪の人ではなく東京の人になるのかとやや寂しい気持ちはありましたが、東京でしかできないこと（世界規模の中継や大きな番組制作）がこの業界には多いので、結果的に上京してよかったです。

#### 就職

2012年4月、テレビ東京の技術職として採用され、今年で6年目になります。就職活動でもやはり技術職志望の女性は少なかったですが、これまでの先輩方が築いてくれた道、そして女性が働きやすい環境をつくろうという世の流れからも、性差で悩んだことはありませんでした。

テレビの仕事を選んだのは、テレビが好きという気持ちからです。テレビは自分の知らない世界を知ることができ、情報はもちろんのこと、感動・笑い・感心といった多くの感情を伝えることができるとても魅力的なアイテムです。また、昔の映像をなつかしんだり、歴史を残すことができるのも大きな魅力の一つです。

テレビ技術の仕事には、制作部門、

↑株式会社テレビ東京 技術局 制作技術部  
"Outgoing Power" by Yukari Yumen (Production Engineering Department, TV TOKYO Corporation, Tokyo)



入社式



雨天での出先中継

送出部門、CG部門など数多くのセクションがあります。中でも自分の手で形にするという部分に魅力を感じ、制作技術部に入りました。音声を志望したのは音が好きだったからという単純な理由でした。好きなものを選んで理系にすすみ、好きなものを選んでテレビ局の音声ミキサーになりました。過去に音声に関する特別な経験はありませんでしたが、これからの人生も長いしゼロから始めればよい、と楽観的だったので新しいことに挑戦することができたのだと思います。

### 働く女性

これまであまり感じてこなかった性差を感じたのが会社に入った頃でした。すぐに覚えていただきかわいってもらえるというメリットとともに、体力的な部分や精神的な部分で男性との違いを感じるようになりました。「女だから」という言葉で自分を判断されることが好きでなかった私は、男女の平等は男性社会に性差を感じさせずに存在し続けることだ、という思いがありました。しかし、根本的に男性と女性は違います。男性社会である理系の世界で女性として生きることは、無理をしたり強がるのではなく、理解しあうことが大切だと気づくことができました。文系理系問わず、働く女性が多いこの時代には、支えあう力が大きなパワーになるということを実感しています。

### テレビの仕事

私が所属する制作技術部は、スタジオでの番組収録や中継・ロケが主な業務です。一見華やかに見える世界ですが、何メートルものケーブルを敷いたり巻いたり、システム構築したりとなかなかの体力仕事です。男性ほど力がないのは仕方ないので、周りの力も借りながら番組を制作しています。華奢だった昔の私はどこへやら…心も身体もどんどんたくましくなってきました。うれしいような悲しいような、ですがどんな場面でも女性として美しくありたいという思いは持ち続けていたいと思うています。

私が担当しているのはいわゆる音声さん、音の調整をするミキサーという仕事です。視聴者のみなさまが不快に思わず聞きやすいバランスで音をミックスすることが基本です。例えば、バラエティ番組では声の大きな演者さんと声の小さな演者さんが一緒に出演します。基本的には1人1つ、ピンマイクをつけるのですが、しゃべった人につけたマイクのフェーダーをいち早く上げることが命です。この反射神経は経験でどんどん速くなっていくので、常に訓練です。今でもまだまだ反省することの方が多いです。また、声のこもった方もいらっしゃるし、声の通る方もいらっしゃいます。それぞれの声の特徴を生かしながら、周波数を調整して聞きやすい音質に整えます。

スポーツ中継では、より現場の空気を伝えるのが音だと思っています。

す。観客の声援、競技音、風の音、選手の声、そこに実況と解説の声を乗せていきます。このバランスは絶妙で、正解はないので感性が問われる場面です。今年度は機会に恵まれ、海外中継も経験させてもらいました。フランスで行われた全仏オープンテニスの中継です。海外での仕事は環境や言語の違いで慣れないことも多く不安だったのですが、スタッフ皆と生活を共にするのでチームの結束力が強く、とても楽しい時間を過ごすことができました。そして慣れない環境での番組制作は、技術者として学ぶべきことも多く、とても貴重な経験となりました。

スポーツ中継は自分も応援席にいるような気持ちも持ちながら、点数が入ったときには心の中でガッツポーズしています。日本が勝ったときには中継スタッフみんなで声をあげて喜びます。この瞬間が私はとても好きです。

まだ経験はないですが、音楽番組では歌のバランスや各楽器のバランス、リバーブ(エコー)等による演出、これらを自分の感性だけでなく歌手の方や事務所の方にも認めていただけるものをつくる必要があります。感性を磨くためにも、好きなものだけでなくさまざまなジャンルの音楽を聴き、いろいろな番組を観て感覚をつかむ必要があります。

6年目、と聞くとなんでもできそうな気がしますが、まだまだ勉強の日々です。力になるところが迷惑をかけてしまう場面も多いですが、先輩方の指導とサポートのおかげで、多くのこと





番組収録



全仏オープンテニス現場

を学んでいます。次に生かせるチャンスがあることは当たり前のことではないので、チャンスがきたら失敗をおそれずに挑戦しよう、とようやく思えるようになってきました。

仕事をする中で、喜びややりがいを感じる瞬間はたくさんあります。技術の仕事は、営業などと違い数値で結果を示すことは難しいのですが、達成感を感じる場面は多いです。

その一つは、放送を観て多くの人が笑ってくれたり感動してくれたり、反響があったときです。家族や友人から観たよ、と連絡をもらうこともありますし、ネットニュースで取り上げられたり、自分の目で確認することができます。視聴率ももちろん大切ですが、仕事の結果が番組となって発信され、皆様に観ていただけることに、とてもやりがいを感じます。

他にも、収録現場で効率よくシステムを組むことができたときや、リハーサルではうまくいかなかったことが本番でうまくできたとき、達成感でいっぱいになります。中継現場では、誰一人怪我することなく中継期間を終えることが一番大切なことだと思うので、無事終了したときはほっとします。

日々の業務の中で、少しでもうれしい、楽しい、と感じられることを増やしていけると、仕事を楽しむことができます。なので、些細なことでもたくさん喜んだり、楽しむことを心がけています。何事も楽しんだもの勝ち！そのためにはもちろん努力が必

要ですが、心がけも大切だと思っています。気持ちは周りにも伝染するので、最近是一緒に番組制作する音声スタッフに対しても、いい空気を作りだしていくことを心がけています。

番組収録の現場では、自分自身が知らなかったことを知るきっかけになったり、勉強になることも多いです。音声さん、とはいえ視聴者の一人でもあるので、テレビが好きな私は純粋に楽しんでることも多いです。

そんな中、小さな楽しみの一つが、番組で取り上げた飲食店に休みの日に食べに行くことです。行列ができる店などは放送前が狙い目だったりします。旅番組のスタジオ部分を担当していたころには、VTRで観た店が忘れられず京都まで行ったこともありました。

他にも昨年度は社屋移転があり、新しいスタジオ・サブを設計する業務がありました。何十年に一度の大きなプロジェクトで、大変なことも多かったのですが、でき上がった新しい社屋を見たとき本当に感動しました。アナログからデジタルへ技術が進歩し、旧本社から見ると近未来ともいえる変化に、新しい時代を感じました。

移転業務の最中は、見慣れない図面を見たり苦手なことも多く、辛いと感じることがありました。なかなか貢献できないもどかしさもあり、不安でいっぱいな日々でした。しかし、でき上がった社屋を見るとそんな気持ちも吹っ飛びました。終わってみるとつらかった思い出よりも達成感の方がずい

ぶん大きいのです。そのことを知ると今後どんなことがあっても乗り越えられるはず、と少し自信がついた経験でした。

細かい部分では、備品の発注や修理出しなど環境整備も大切な業務です。ここは女性ならではの着眼点が生きる部分でもあります。

女性であることが仕事の幅を狭める場合もある、とよく聞いていましたが、幸運なことにそのようなことを感じることなく今まで音声として業務を続けていられています。逆に、女性だからこうあるべき、という雰囲気もないので、自分らしく仕事をする事ができています。周りのみなさまには本当に感謝でいっぱいです。

## これから

今後、結婚や出産など女性として大きな転機をむかえることになると思います。もちろんこれまで通りにいかないことや、つまりくことはたくさんあると思いますが、その際に多くの選択肢があるのはこれまでに先輩女性の方々がつくってくれた環境のおかげです。さらに、私は女性上司のいる部署であることにさまざまな場面で助けられています。自分もこれからいろんな経験をして、未来のリケジョのみなさんの力になれる存在でありたい、と日々感じています。キラキラ輝くかっこいい存在となれるよう、日々邁進していかなければ。この文章を書きながらそう思っています。（2017年8月31日受付）